いろいろな最上級の慣用表現

最上級を使った慣用表現にもいろいろなものがあります。ここでは、高校レベル程度で必要なものをいくつか紹介しています。

make the most(best) of ～

「～を最大限に利用する」のような意味で使われます。

You should make the most of the few chances to become a member of the national team.

「日本代表選手になるためには、その数少ないチャンスを最大限に生かすべきだ。」

◆most の代わりに best を使うのは、「困難や不満足な状態等を切り抜ける」という場合などがよくあります。

Mr.Redd made the best of any bad situations. So I think he could acquire enormous wealth.

「レッド氏はどんなにひどい状況をも切り抜けてきました。だから彼は巨万の富を得ることができたのでしょう。」

most of all

「とりわけ、何よりも」などの意味で使われます。

Most of all, the sunset over the sea was so beautiful.

「何よりもよかったのは、海に沈む夕日が大変きれいだったことです。」

at (the) best

「どうよく見ても、せいぜい」などの意味で使われます。この逆は at (the) worst です。

This art object seems to be at (the) best a counterfeit.

「この美術品はどうよく見ても偽物のにしか思えない。」

counterfeit　偽物

◆ at (the) most は量的なもの、at (the) best は質的なものを表すという違いがあります。

The man was only 160 centimeters tall at (the) most.

「その男は身長がせいぜい 160 センチくらいしかありませんでした。」

at one's best

「最もよい状態で、全盛で」などの意味で使われます。

My five-year-old daughter is at her best when she is drawing a picture.

「私の 5 歳の娘は絵を描いているときが一番輝いています。」

at (the) least

「少なくとも、一応」などの意味で使われます。at (the) most の反対語になります。

At least we 'd better try to persuade them to agree with this plan

「一応は、彼らにこの計画に賛成するよう説得を.試みるべきだろう。」

I feel melancholy at least once a day.

「私は少なくとも一日に一回は憂鬱になります。」

the last＋名詞＋to＋不定詞

「最も～しそうにない」などの意味で使われます。

North Korea may be the last nation to be welcomed in the world.

「北朝鮮は世界で一番最後に歓迎される国家かも知れません。」

↓

「北朝鮮は世界で最も歓迎されない国家かも知れません。」

前置詞

前置詞は主に名詞や代名詞の前にきますが、文尾にくる場合などもあります。ここでは、それぞれの前置詞の中学レベルの基本的な意味は割愛し、高校英語において注意すべき使い方などを説明します。

前置詞の使い分け

◆ 同じ場所を表す前置詞でも、場合によっては、違った感覚を表現することになります。

A. I arrived at the city at eight.

B. I arrived in the city at eight.

※ A では、その city を（よく）知っていて、広がりのある場所として捉えている感じがありますが、B では、単に旅行中の一つの場所として捉えているとも言えるでしょう。

She has lived at several places in London.

「彼女はロンドンのいくつかの場所で暮らしたことがある。」

※ ロンドンは広い都市で、その中のいくつかの単なる場所に住んだことがあるという感じがあります。

◆ 時を表す前置詞にも注意が必要です。

A. My son got up at five in the morning.

「息子は朝の５時に起きた。」

B. My son was born on the morning of April 1st.

「息子は４月１日の朝に生まれた。」

※ A では、朝という時間帯の中を指していますが、B では、４月１日という日付が一番の焦点となっています。

◆ 手段を表す前置詞 by と with にも、使い分けがあります。

A. The man was killed by a large stone.

B. The man was killed with a large stone.

※ A では、その男の人は落ちてきた大きな石が当たって死んだと考えられますが、B では、誰かがわざと大きな石を投げぶつけて殺したというように考えられます。

A. The man was stabbed by a knife.

B. The man was stabbed with a knife.

※ この場合には、A であってもナイフが勝手に刺さっていったとは考えられません。つまり by は、その行為自体が中心にあり、with の場合は、手段として使う道具が中心にあると考えます。

「昨日ブラウンさんという人から電話がありませんでしたか。」

※人名に不定冠詞が付く時は、「～という人」という意味を表します。

Mars is a planet in the solar system.

「火星は太陽系の中の惑星である。」

the solar system 太陽系は大文字で書いて Solar System とすることもあります。

抽象名詞

◆ 物質の性質や状態、動作などを抽象的に表現した名詞です。

簡単に言えば、手にとったり、目で見たり、数えたりすることのできないものです。

抽象名詞も不可算名詞なので、一般的には、無冠詞で単数形として使われます。

◆ 例えば抽象名詞には次のようなものがあります。

love（愛）, life（人生）, joy（喜び）,strength（強さ）,hate（憎しみ）,wealth（富）

Love is blind.

「愛（恋）は盲目。」

Much experience in sales is a big help to my present job.

「豊富な営業経験が大いに今の仕事に役立っています。」

※ much experience で「たくさんの経験」となりますが、この場合、experience は抽象名詞なので単数扱いです。

sale は複数形になることで「販売活動」といった意味を持ちます。

help もここでは「助け」といったような意味で抽象名詞ですが、big という形容詞が付くことで、具体的な例を表すことになり、定冠詞が必要になります。

名詞の所有格のいろいろな表し方

名詞を所有格の形にするには、名詞の後ろに 's を付けたり of を付ける方法があります。
ここでは、どちらをどのように使えば良いのかを学習します。

's と of

単数や複数を表す場合などで、付け方に違いがあることがあります。

◆ 単数の場合

Mary's cousin（メアリーのいとこ） a cat's tail（猫の尻尾）

通常は人や動物以外では of を使いますが、例外もよくあります。

an hour's walk（歩いて 1 時間[の距離]） the sun's rays（太陽光線）

単数の場合でも、語尾が s の音で終わるものには（'）だけを付けることがあります。

Michael, don't go there alone, for goodness' sake.

「マイケル、お願いだから 1 人でそこに行かないでね。」

for goodness' sake お願いだから

◆ 複数の場合

my childrend's room（子供たちの部屋）

語尾が s の複数名詞の場合は、（'）だけを付けます。

a boys' shcool（男子校） ladies' watch（婦人用の時計）

My office is five miles' distance from here.

「私のオフィスはここから 5 マイルの距離にあります。」

※ five miles distance となって、(')がつかない場合もあります。

◆ 所有格に続く名詞が省略される場合

Is that sweater your brother's (sweater)?

「あのセーターはあなたのお兄さんのですか。」

※同じ名詞の重複を避けます。

I've been to a barber's (shop).

「床屋さんに行っていました。」

※名詞の所有格の後にくる、 house, hotel, shop, department store など、場所や建物を表す名詞はよく省略されます。

◆ 無生物（人や物以外）の場合は of を使うのが普通です。

△ The house's front was painted blue.

○ The front of the house was painted blue.

「その家の正面は青色に塗られていました。」

上の英文でも十分に通じるのですが、下の例文ののように言う方が普通であり、ネイティブにも受け入れられやすいということです。

◆ 's と of の違いによって、意味が変わるものもあります。

today's newspaper（きょうの新聞）　newspaper of today（こんにちの新聞）

名詞＋of＋名詞＋'s

◆ 二重所有格とも呼ばれるもので、所有を表す名詞に a(an), this, that, some, any, などが付くときに、この形になることがあります。

Margaret was wearing a diamond ring of her mother's then.

「マーガレットはその時、母親のダイヤのリングをしていました。」

◆ 次の２つの英文に注意してください。

A painting of his sister's was exhibited at the art museum.

「彼のお姉さんの描いた絵がその美術館で展示されていた。」

A painting of his sister was exhibited at the art museum.

「彼のお姉さんを描いた絵がその美術館で展示されていた。」

※ his sister's painting では「彼のお姉さんの絵」となり、文脈によっては、上の２つのどちらにでも解釈することができます。